

消費者ニーズに合わせた欧州品種ワイン原料確保！

株式会社甲府ワインポート

＜法人の概要＞ 所在地：山梨県甲府市

設 立：昭和 58 年 4 月

資本金：1,000 万円 売上高：18,000 万円（平成 25 年度）
（うち農業及び農業関連事業：700 万円）

役 員：3 名（うち農業従事者 3 名）

従業員数：常時雇用者 6 名（うち農業従事者 6 名）

臨時雇用者 5 名（うち農業従事者 5 名）

経営面積：0.7ha（山梨県甲府市） 営農作物：醸造用ぶどう

農業開始時期：平成 22 年 12 月



法人経営園場



醸造用ぶどう



＜農業参入に至った経緯・動機＞

- ・昭和 49 年に有限会社を立ち上げ、レストランや小売酒店を経営。昭和 58 年に株式会社へ衣替えをし、結婚式も行える現在の形とした。
- ・レストラン経営を始めた当時、国産ワインは飽和状態にあり、将来を見据えた経営を考える中で欧州品種を原料としたワインのニーズに着目。
- ・農業については、元々、当法人を立ち上げた前社長が個人でぶどう栽培を行っており、平成 10 年よりフランス醸造用品種ピノ・ノワールを植栽。
- ・平成 12 年に酒造免許を取得し、自社でのワイン醸造を開始。
- ・ワイン醸造を続ける中で、高品質かつ消費者ニーズに合わせた醸造用ぶどう品種の栽培、原料調達経費の軽減、収穫時期など自社の都合に合わせた原料確保が可能となるなどの様々な利点を考慮し、自社農園化を決定。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

- ・自社農園化を決め、近隣の耕作放棄地 0.7ha を平成 22 年に借入れ、再生作業を行い、醸造用ぶどうのピノ・ノワールを栽培（山梨県内でピノ・ノワールを栽培し、商品化している会社は数社）

＜営農開始から現在まで＞

- ・栽培技術については、ピノ・ノワールは粒が小さく堅いため、薬剤が中に届かず、営農を行う中で苦労があったが、元々、個人経営で培ってきた経験を活かしている。
- ・現在では、地域農家の委託栽培による原料調達も含め年間約 2.5 万本のワインを醸造し、全て自社販売と結婚式の引き出物で消費。
- ・耕作放棄地の引受けは地域の農業を守ることにもつながるものと考えている。
- ・醸造用は生食用と異なり、つぶが小さいものが優秀とされ、本地域の山間の農地は機械化には向かないが、水はけが良く、日当たりが良いため、品質の高い醸造用ぶどう栽培に適している。
- ・ぶどう栽培は収穫まで 4 年かかることやピノ・ノワールは国内品種と比べて十分な収穫量が得られないことから、生産部門だけを見れば経営は厳しいが、ぶどう栽培からワイン醸造、販売まで自社で一貫して行うことで利益を生み出すことができ、農業参入には一定の成果があったと考えている。

＜今後の農業経営の展開方向＞

- ・自社以外の販路開拓を目指し、徐々に消費拡大を実現したうえで、経営規模の拡大を検討したい。
- ・ワインだけでなく、ドライフルーツやジュース、オリーブなどの加工品も手がけていきたい。

＜今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス＞

- ・消費者ニーズを考え、新規参入時から欧州品種のぶどう栽培に挑戦したことは正解であったと考えており、企業の農業参入については、入り口から実際に参入し農業経営を行っていく中で諦めないことと消費者から評価を得るものを作ることが重要であるとする。



(株) 甲府ワインポートのワイナリー風景



自社生産ワイン